

日本神経精神薬理学会
第48回理事会(2010年度)議事録

日時: 2010年12月22日(水) 13:00~16:00

場所: 八重洲倶楽部 第2会議室

(〒104-0028 東京都中央区八重洲2-1 八重洲地下街中1号 TEL: 03-3275-0801)

出席者: 2007-2010年度理事 米田幸雄(理事長), 齋藤利和, 松田敏夫, 吉岡充弘
2009-2012年度理事 池田和隆, 石郷岡純, 曾良一郎, 仲田義啓, 山田清文
2011-2014年度理事 大熊誠太郎, 荻田喜代一, 西川 徹, 南 雅文, 山脇成人
2011-2014年度監事 馬場明道

欠席者: 2007-2010年度理事 尾崎紀夫, 小山 司, 武田弘志, 武田雅俊
2007-2010年度監事 五味田裕
2009-2012年度理事 大森哲郎, 野村総一郎, 山本経之
2009-2012年度監事 加藤進昌
2011-2014年度理事 神庭重信, 鈴木 勉, 中村 純

記録: 中川庸幸, 佐々木真紀(事務局: 学会支援機構)

米田幸雄理事長から前回(第47回)理事会議事録(案)及び2010年度評議員会/総会議事録(案)が提出され、加筆訂正等あれば事務局までご連絡いただきたいとの依頼がなされた。

・協議事項

1. 日本神経精神薬理学会(以下、NP)・日本臨床神経精神薬理学会(以下、CNP)との統合案について

米田理事長から前回のNP・CNP合同委員会において、CNP側から提出された資料が配布された。NP側の統合方針を協議するため、米田理事長から以下の3案が示された。

- 第1案: 完全統合(ハードル高し)。
 - 第2案: 独立学会として現行の合同大会形式を維持。
 - 第3案: 独立学会の上に合同理事会を設置して窓口一本化。
- <以下、主な意見を抜粋>
- ・NPでは役員が2年毎に半数交代となるため、これまで協議されてきた内容を継続して認識していくことが難しい。
継続性をもった対応委員会を設置し、集中的に検討する体制を構築することが必要である。
 - ・統合に関するメリット、デメリットを明確にする必要がある。
 - ・対等な協議を行うには、NPとしてのあり方を突き詰め、学会としての基礎を固め、活性化した後に対等な統合を提案してはどうか。
 - ・一般会員の意見を確認する必要がある。
 - ・学会自体の統合と年会を合同で行うことが混同して議論されている。分けて議論していくべきである。
 - ・現在、海外からの窓口はNPが認識されている。CNPも含むような形にするのであれば、他の関連学会が採用しているような国際対応合同委員会のようなものを組織して、一本化することも検討してはどうか。
- 以上の意見・議論を踏まえ、継続した委員で構成した権限のある委員会を組織し、本案件に当たることになった。人選については、新理事長へ一任されることになった。

2. 日本神経精神薬理学会 学術賞について

米田理事長から学術賞選考委員会からの資料に基づき、以下の説明がなされた。

- 1) 本会の学術賞は、投稿原稿の増加を目的の一つとして創設された経緯があり、選考対象は、原著論文とミニレビューであるが、ここ数年の選考対象論文が減少傾向にあったため、学

術賞のあり方について委員会へ検討を依頼した。

2) 理事会からの要請を受けて、学術賞選考委員会、編集委員会、長期計画委員会の3委員会合同で学術賞のあり方について議論を重ねた結果、従来の「学術賞」を「論文賞」へ改め、新たに「学術奨励賞」を新設してはどうかとの結論になり、理事会へ答申した。

3) 上記の答申を元に、前回の理事会で議論したが、本件は学会誌の在り方も含めて議論する必要があることから、「学術奨励賞」の新設については保留となった。

以上の経過説明の後、次期理事会へ以下の意見とともに申し送ることになり、学術賞選考委員会、編集委員会にて引き続き、検討を依頼することになった。

1) ミニレビューの性格を再度周知徹底したうえで、原則として原著論文とミニレビューからそれぞれ1編ずつを選出するようにする。

2) 英文名: Science Award of Japanese Society for Neuropsychopharmacology と称する。

3) 今後企画として、年会時の座長に推薦論文を依頼し、原著論文でなくてもかまわないので、啓蒙的な総説やミニレビューなどの原稿を依頼する。

3. AsCNP オフィスの件について

米田理事長および山脇アドバイザーから AsCNP オフィスの設置について、これまでの経過報告と協議内容が示された。

2009年12月8日に2009 CINP/ECNP/ACNP Leadership Meeting が開催され、日本からは山脇アドバイザー(AsCNP 理事長)が出席した。Leadership Meeting では、AsCNP の設立を重要視しており、2010年12月に開催される ACNP (米国)に10名の出席枠を AsCNP へ与えるとのことであった。AsCNP 内での調整の結果、日本からは7名を派遣することになった。

ACNP は参加資格が厳しい組織であるが、昨年設立したばかりの AsCNP が国際的に重要視され、対等な立場で認められており、AsCNP センtralオフィスの立ち上げが急務となった。

さらに第2回開催国である韓国がかなり積極的に AsCNP へ参加していることから、日本が主導的な立場でアジアの神経精神薬理学の発展に寄与するためにも、センtralオフィスは日本へ設置することが必要であるとの報告がなされた。

以上の報告を受け、本会としては、日本に設置する方針について承認し、事務所の維持経費についても可能な限り相応の負担を行うことが確認された。

なお、AsCNP の国内対応学会は、CNP との協力で進めているため、CNP の意向を確認してから打診する予定である。

4. 海外派遣等の旅費申請書について

米田理事長から AsCNP の設立により海外派遣活動も活発になるため、旅費の申請手続きについても整理しておく必要があるとのことから旅費申請書(案)が提出された。

書式については概ね了承を得たが、渡航費用の基準運賃を定めておく必要があるとの指摘から、ベックス運賃を基準とすることになり、書式へも明記することになった。

なお、申請に当っては、所属機関等の申請手続きのため、派遣対象者からの事前連絡のもと、必要があれば、学会からは正式な派遣申請依頼書を送付するなどの事務手続きを行うことになった。

5. 2013年度大会長の選出について

2013年の年会会長について、同年は非臨床系の会長を推薦する年であることから、学会への貢献、地域性などが考慮され、仲田啓義理事(広島大学・薬効解析科学・教授)が推挙され、全会一致で承認された。

なお、合同大会を前提としている NP と CNP の会長選出において、それぞれの選出時期が異なることから、CNP 側が先に選出してきた。これにより、合同大会の開催地などは NP 側が合わせる形となっている。今後、開催地の選定も対等な形で選定していきたいとの希望から、大会長の選出時期も前倒しの方向で検討していくことになった。

6. 日本学術会議会員及び連携会員の候補者に関する情報提供について

日本学術会議から第22期(平成23年10月～平成26年9月)会員及び連携会員の選考において、日本学術会議会則第34条第4項の規定に基づき、協力学術研究団体に対し、会員又は連携会員の候補者に関する情報提供の依頼があった。

情報提供の可能人数は1団体6名以内とし、うち2名以上は女性とするとの規定があることから、推薦の有無も含め、新理事長へ一任することになった。

7. 新評議員推薦の件(齋藤理事)

以下の1名が推薦されており、審議の結果、評議員資格を有するとして、評議員会へ諮ることが承認された。

稲垣 真澄(国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所)

8. 新入会希望者承認の件(齋藤理事)

2010年9月1日から2010年11月30日までに23名の入会申込者があったことが報告され、全員の入会が承認された。

報告事項

1. 各委員会報告(各種委員会からの申し送り事項について)

a. 総務委員会(齋藤理事)

以下の通り会員報告(2010年9月1日から2010年11月30日)がなされた。

会員数: 1,189名(2010年11月30日現在)

内 訳: 名誉会員 24名, 評議員 182名, 正会員 955名, 学生会員 5名
賛助会員 23社

新入会: 23名

退 会: 本人申出 8名

逝 去 1名

物 故 者 名誉会員 大熊 輝雄 先生 2010年9月15日ご逝去

b. 編集委員会(石郷岡理事)

雑誌刊行状況、依頼状況、査読状況につき以下の報告がなされた。

1. 刊行状況, 依頼状況, 査読状況

1) 刊行状況

29巻(2009年): 総説17, MR6, 原著4を掲載。

30巻(2010年): 総説21, MR7, 原著1を掲載。

2) 依頼状況

依頼論文で今年ご寄稿いただいた原稿は5編である(学会シンポジウムは除く)。

3) 投稿状況

2009年の投稿は総説2, 原著2(うち英文0), 短報1の計5編。

2010年の投稿は原著3編(うち英文1)である。(2010年12月20日現在)

2. 執筆依頼・企画

例年どおり編集委員による総説とミニレビューの依頼と今年の学会シンポジウムの打診を行い、ほぼ回答が返ってきている。また今年はCINPの優秀賞受賞者にも執筆を依頼した。

c. 財務委員会(武田(弘)理事欠席のため米田理事長から報告)

報告事項は特になし。

d. 国際学術委員会(尾崎理事欠席のため米田理事長から報告)

報告事項は特になし。

e. 学術賞選考委員会(山本理事欠席のため米田理事長から報告)

報告事項は特になし。

- f . 長期計画委員会（小山理事欠席のため米田理事長から報告）
報告事項は特になし。
- g . 広報委員会（吉岡理事）
資料に基づき、本学会ホームページの最新の掲載内容について報告がなされた。
- h . 研究推進委員会（武田(雅)理事欠席のため米田理事長から報告）
報告事項は特になし。
- i . 倫理委員会（松田理事）
報告事項は特になし。

2 . NP・CNP 合同委員会報告（米田理事長）

資料に基づき、以下の報告がなされた。

- 1) 米田 NP 理事長から NP は統合については前向きに合同大会を継続していくことで機が熟していきと考えているとの現状を報告した。
- 2) 兼子 CNP 理事長から 2011 年の CNP の企画として、若手会員にも学会統合に関する議論に参加してもらうため、統合に関する勉強会を企画しており、NP の理事会でも取り上げていただき、2011 年の合同年会で議論を深めていきたいとの要請があった。
- 3) 兼子 CNP 理事長から時間を区切ってある程度の結論を出す必要があるとのことから、今後 4 年間を目処にある程度の結論を出すことになった。
具体的な検討事項についても提案がなされ、双方の理事会で検討し次回以降の協議事項とした。また、NP の理事会でも将来構想についていくつかの具体案を上げていただき、次回の協議事項への組み込みをお願いしたいとの依頼があった。

以上の報告の後、合同委員会のメンバーは、従来のあて職で就任していくのではなく、継続したメンバーで構成することになり、以後、長期計画委員会が対応委員会として、活動していくことが承認された。

3 . AsCNP 報告（山脇 AsCNP 会長）

資料に基づき、以下の報告がなされた。

- 1) 昨年設立された AsCNP が、国際的にも ACNP、ECNP と対等に認知されている。第 2 回大会開催国である韓国も非常に力を注いでおり、日本がアジアでのリーダーシップを発揮するためにもセントラルオフィスを日本に構えるなど積極的な関わりが必要であるとの要請と協力依頼がなされた。
- 2) 韓国から AsCNP 雑誌に関しては KCNP (韓国) が発行している英文雑誌を AsCNP 機関誌にしたいとの要望が出ているとの報告がなされた。
- 3) AsCNP、ACNP、ECNP、CINP との連携構想がスタートしており、ECNP の提案で 4 学会合同の Nomenclature Committee が結成され、向精神薬の新しい分類名称について製薬会社主導ではなく、アカデミア主導の命名法を検討する議論が始まった。精神薬理に関するアジアの意見を求められているため、理事各位へ協力依頼がなされた。
- 4) 第 2 回アジア神経精神薬理学会（ソウル大会）
第 1 回 AsCNP 京都大会には韓国から 100 名近くの参加者があった。ソウル大会へは日本から多数の演題発表と参加をお願いしたいとの依頼がなされた。
The 2nd Biannual Meeting Asian College of Neuropsychopharmacology(AsCNP)
September 23(Fri) ~ 24(Sat), 2011
Seoul Millennium Hilton Hotel, Korea
- 5) AsCNP のロゴマークの紹介がされた。

4. 第41回年会（第21回日本臨床精神神経薬理学会と合同開催）準備状況報告（鈴木会長欠席のため米田理事長から報告）
資料に基づき、以下の報告がなされた。
日時：2011年10月27日（木）～29日（土）
会場：京王プラザホテル
会長：鈴木 勉（星薬科大学薬品毒性学教室・教授）
第21回日本臨床精神神経薬理学会
野村総一郎会長（防衛医科大学校精神科科学講座・教授）と合同開催

5. その他

科研費細目の提出について（米田理事長）
平成24年度公募において設定する「時限付き分科細目」の新分野候補の提案について、新分野候補名として「こころの健康と希望の科学」を提案したことが報告された。

協議事項

1. 新理事長の選出について

米田幸雄理事長の任期満了による退任に伴い、新理事長を継続理事・新理事から選出することとなり、山協成人新理事が推挙され、全会一致で承認された。

2. 各種委員会委員長の選任について

山協成人新理事長から以下の通り各委員長の推挙がなされ、就任依頼することになった。
なお、辞退があった場合には、他の理事に委員長就任を依頼することとし、選任については新理事長に一任することになった。
委員会の構成については、実務的な活性化を目的として、委員数を減らす方向であることが提案された。

総務・広報委員長：池田 和隆 理事
財務委員長：大熊誠太郎 理事
国際学術委員長：大森 哲郎 理事
編集委員長：南 雅文 理事
学術賞委員長：山田 清文 理事
長期計画委員長：石郷岡 純 理事
倫理委員長：中村 純 理事
研究推進委員長：曾良 一郎 理事

- 1) CINP 理事である齋藤利和理事が今期をもって退任されるため、国際的な連携を重視のため、アドバイザーとして理事会に臨席していただくことが提案され、承認された。
2) NP と CNP の統合協議については、継続的な意志統一が必要であることから、米田幸雄前理事長にアドバイザーとして臨席いただくことが提案され、承認された。

以上

平成22年12月22日（水）
日本神経精神薬理学会
理事長 米田 幸雄